

# 会 議 録

第 1 7 回定例会

開会 令和2年12月22日

## 教育委員会会議録

1 開 会 令和2年12月22日 午前10時

2 閉 会 令和2年12月22日 午前11時25分

### 3 教育委員会出席者

教育長	榎 浩一
委員	小林 信行
委員	河口 雅子
委員	菊池 健次
委員	島 隆寛
委員	三木 千佳子

### 4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	平井 琢二
教 育 次 長	藤本 和史
教 育 次 長	藤田 完
教 職 員 課 長	小倉 基靖
生涯学習課長	木野内 敦
総合教育センター所長	中野 敏章
教育次長(教育政策課長事務取扱)	長町 哲治
教育政策課副課長	倉橋 文代

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

副教育長 9月定例県議会における質疑応答の概要について報告する。

[議 事]

教育長 協議事項1及び報告事項2を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項4 徳島県GIGAスクール構想推進本部（第3回）開催結果の報告について》

教育長 報告を求める。

総合教育センター所長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：先日、上板町の高志小学校を訪問させていただき、非常に、素晴らしい取組で感動した次第である。あちらで、培われたノウハウというのは非常に有用と思うので、是非、あちらの実践例を他の学校も参考にさせていただきたい。一方で、教職員の先生方、これから教える方も大変だろうと思うので、ああいった素晴らしい取組を全県下に広げていっていただきたらよいと思っている。あちらの事例をどう参考にしていくのか、先生方の研修をどのようにしていられるのか、お伺いしたい。

総合教育センター所長：ただ今、お話しいただいた高志小学校を含め、8校のモデル

校を設けている。高志小学校もその1つで、優れた取組を実践いただいている。先週金曜日から今週木曜日にかけて行っているスタートアップ研修の中で、モデル校の担当者の方もお招きしており、全ての学校の先生方に、取組の状況をお話いただく時間も設けている。1つのモデルとなり、県内の方にも普及させていきたいと考えている。

河口委員：私も高志小学校を拝見させていただいて、校長先生のリーダーシップのもとに素晴らしい事業が展開されていると思った。また、先生方への技術的な研修が始まり、どこの学校も教員が大変だろうと思うのだが、来年度はそういった技術だけでなく、そのタブレットを生かした授業づくりというのが教員にとって大事であると思う。そういったことを含めての研修であると思うのだが、そこに力を入れて、格差のないような徳島県内の各小中学校の取組を希望する。先生方も子どももおそらくすぐに使いこなせると思う。非常に生き生きとして授業に参加していたが、もう一つ次の段階のそれを生かした授業づくり、子どもたちの学力とか意欲モチベーションに繋がっていくような授業形態について、先生方に研修を実施していただきたいと思う。

総合教育センター所長：説明の中にあつたスタートアップ研修と今年度中に行う学校からの要請に基づいた研修、これらで全ての先生方がアプリケーションを使った授業が出来ることを目標として取り組んでいる。授業の中でアプリケーションが使えるということと、本当にいい授業をするということで、次年度については、先ほどの説明にあつたGIGAスクールサポート事業や、従来のフレッシュ研修、ミドルリーダー研修などそういう研修の中身を入れ替え、全てGIGAスクール対応とし、そして、授業改善等にも取り組んでいき、更に良い授業を目指していきたいと考えている。

三木委員：徳島県全体でとお話を聞かせていただいたが、遠島には、私立や国立の学校もあるが、そういった学校との取組の差がどのくらいあるのか、私立との連携等があると思うが、そういったことをお聞かせいただきたい。

総合教育センター所長：推進本部で協議した内容、資料についてはホームページなど様々な形で情報発信している。全ての学校が対象となっている。ただ、直接、県教育委員会が行っている研修については、やはり公立学校の先生方が対象となってくるが、附属学校については、人事交流もあることから、いろいろなノウハウが

伝わっていくという状況下にあると思っている。

三木委員：基本的に、いい取組をしているというのがあれば、また、私立の方でも、すごくいい取組をされているというのがあれば、それをこちら側が取り組んでという交流もあるということか。それは独自にということか。

総合教育センター所長：私立の学校とは、ともに研修するという機会は今のところはないが、今後の1つの課題ということになると思う。

副教育長：一点だけ補足をさせていただきたい。私自身、私立の場合、学校としての独自性自主性を尊重していくというのがあろうかと思う。そういうことを前提として、ハードの環境については、公立も私立もできるだけ公平に整えていくという考えのもとで、まず、県立学校の高校・特別支援学校高等部について全員のタブレットを県が確保して無償貸与するという制度を整えたが、それに連動して、私立の高等学校の生徒さんの皆さんにも同様の環境を整えるべく、徳島県として、私立学校に1台当たり45000円の補助制度を創設しており、公立私立問わず全員の環境整備ができています。そこから先は、それぞれが、参考にしながら、いかに活用していくか、相乗効果というのを、期待しているところである。

藤田教育次長：研修については、県立、市町村立は悉皆になるが、大学法人の附属小学校に対しては、リーダー研修といった基本的な研修について、案内をしているところではある。GIGAに関することについても、広く案内をしていく方向で検討はしていけると考えたところである。

河口委員：2点目の部会の新設についてだが、これは、新たにこのようなGIGAスクールを立ち上げるときに、こういった部会が必要である、役立てるといったような発想で考えられたのか。

総合教育センター所長：推進本部を立ち上げた7月の段階で、小学校部会、中学校部会、高等学校部会、特別支援学校部会、総務部会の5つの部会は、同時に立ち上げ、今回報告書にまとめたことを協議・議論していたところであるが、報告書がまとまる時期になり、やはりGIGAスクール環境というものが様々なものに活用できるのではないだろうか、特にGIGAスクール構想の目的というのが、誰1人取り残さない個別最適な学びということであるため、そういったことから、やはり、不登校を含める長期欠席者の皆様にも何らかの支援が新たに出来るのではないだろうか、そういった声が高まった。そこで、推進本部第3回で当初は1つの区切りが付くのだが、次なるフェーズということで、新たな部会を設置して今後検討していこうと

ということになったという次第である。

河口委員：これを読ませていただいて、誰1人として取り残さない教育が必要であると思う。この新設する部会は非常にいいことだと思う。大学でも遠隔授業しているとなかなか皆さんと一緒に授業を受けられない生徒もいる。遠隔授業によって授業を受けることができる、自分のいろいろな思いを利用者に伝えられるという学生も多くいた。全員と一緒に勉強できない不登校生にこのようなことを使って、学びができるということは良いことだと思うので、是非、進めていっていただきたい。

菊池委員：今モデル校が8校ということで、お聞きしたが、8校の学校がそれぞれで、高志小学校なみにすばらしい授業が展開されていると思うのだが、来年度、8校が引き続きモデル校のまま進むのか、減らすのか、残すところの学校全てがそれに向かって、ある時点でスタートを一斉にかけて、モデル校に追いついていくような努力をされるのか。少し早めにスタートを切られている学校では授業として成り立っているんですね。視察で質問させていただいた中で、保護者の方が非常に感激されているという成果が出ているとの話が聞こえてきた。であれば、こういった環境を全ての学校に整備していただいて一刻でも早くスタートしていただく、これが最大の策と思うので、タブレット等々まだまだ整備されていないところもあるのでしょうけれども、同じスタートラインに着けるような努力をしていただきたい。

総合教育センター所長：その成果を情報発信していただくよう、モデル校にもお願いしているところだが、教育委員会としても、様々な形でモデル校の取組を早く広げて、タブレットが入ってくるやいなやそれに向かって頑張っていけるようなサポートをしていきたいと思う。モデル校の次年度につきましてはモデル校的な牽引するような学校の必要性も感じているので、そこは今後検討していきたいと思う。

小林委員：1つだけ教えていただきたい。新聞だけの知識なのではっきり分からないが、デジタル教科書の制約がかなり緩くなって、来年の春から小学校高学年から全面的に使ってもいいと全教科でなったと思うのだが、徳島県としてはデジタル教科書の使用について、いつからどのように考えているのか。

藤田教育次長：小中関係のことについては、既に導入を図られている市町はある。具体的には徳島市などはかなり前からデジタル教科書を入れている。全県的に導入されているデジタル教科書は、教師用であり、指導者用のデジタル教科書というものがかなり行き渡りつつある状況である。ただ、児童生徒用については、今お話にあったように今後のことになっ

てこようかと思う。

菊池委員：デジタル教科書で、今までの紙媒体と比べて分かり易くなるんでしょうけれども、今回のように急に4月から自由に使ってもいいんですよと通知があったとして、あまりにも性急過ぎて、さあ、どうぞという感じになっても、今まで準備出来ていないように感じる。それは、各市町村とか県で、対応していくことになるのだろうが、今の段階でどのくらいを目途にしているのか。

総合教育センター所長：デジタル教科書については、学校教育課の担当になっており、センターでも指導者用から、まず導入して、次に学習者用という大きな流れは、そのとおりに思うが、細かなところは承知していない。

教育長：G I G Aスクールについての話であったんですけど、やはり皆さんG I G Aスクールについての期待が大きいと考えている。徳島県においても、先ほど所長から話があったが、G I G Aスクール構想推進本部を立ち上げ検討をしている。私立の学校との相乗効果についても、先ほどお話しいただいたが、県としては、公立の学校が私立の学校に勝ちか負けをいうのではないが、見劣りしないものをしっかり作っていききたい。ホームページ等を充実して徳島県だけでなく、他県にも発信し、「こんなことを徳島県はやっている」というものを見せることができるよう作りあげていききたいと感じている。意気込みは非常にあるが、実際、作業はこれからである。高志小学校や穴吹中学校を見てきたが、先生方はどんな工夫をすれば良いのか分かっていた。デジタル教科書の話が出たが、何をどのように使うのか、どの場面で使うのかをまず、教職員間で相談して、効果があるときに使うという使い分けをしていた。高志小学校では、使えない場面はどこなのかをよりわけていた。大事なのは子どもに一番効果的に学んでもらうというやり方なので、デジタル教科書ありきではなく、効果があるやり方を教職員がしっかり相談する。それは学校の状況や子どもの発達年齢によっても違うと思うので、やはり一番良いものを提供できる選択肢が増えたと考えていただきたらと思う。不登校の子どもが家庭でオンライン学習が出来るようにW i - F iをつけたらいいという、簡単な問題ではなくて、学校に来られないつらい状態をどうすれば学校に通っていただけるのかということも含めて検討する必要があると思うので、なかなか問題は沢山あるのだが、一つ一つ解決しながら、新しい学びを体験できたらと考えている。

三木委員：G I G Aスクールで今まで実感して思っていることだが、今まで全体授業を紙媒体で一律に行っており、ついていけない子、ついていけない子がいて、

不登校のきっかけが、学校の勉強についていけないことから始まっていることもすごくあると思うので、不登校または不登校になりそうな子への対応というところで、1人1人にタブレットで、1人1人に授業ができるというのであれば、みんなで一律の授業でない、その子の理解に合わせた、学習の課程というのもできていけるように考えていただけているのかということも聞かせていただきたい。もしそうでなければ、是非そのように1人1人というのであれば、そして、そこまでケアしていただけるようになれば、学校に来るのがつらいという子が減るのではと思っている。

総合教育センター所長：新しい部会についてであるが、本日10時半から総合教育センターで第1回目の部会を開いているところである。ただ今、お話しいただいたような内容については、そういったところもしっかりと議論したいと思う。新たに1人1台入ったときのアプリケーションについては、県のモデル、市町村の推進モデルがあるが、その中には個人でどんどん使って、そして深い学びに行くようなものも入っており、もちろん、一斉授業やグループ学習に使えるようなものも入っているので、そういったものの機能を生かして誰1人取り残さない個別最適な学びということにたどり着くような議論をしていきたいと考えている。

教育長：分かる、出来る活動というのをいかに授業の中で作っていくかというのを、その部会で考えていくというのが全てになろうかと思う。分からない、できないことを1日椅子に座って聞くのではなくて、様々な手段を用いて、出来た、分かったという活動をするのが、一番大事で、そこからスタートすることになると思うので、そういうことも含めて、しっかり検討をお願いしたい。

### 《報告事項3 「徳島県読書バリアフリー推進計画」の策定について》

教育長 報告を求める。  
生涯学習課長 内容等を報告する。

#### 〈質 疑〉

河口委員：とてもよい取組であると思う。「サポート人材の養成」とあったが、どれくらいの人数を考えているのか。

生涯学習課長：現在、点字・音声図書の製作はボランティアに頼っており、高齢化も

進んでいる状況である。若い世代への製作技術の伝承も望まれている。GIGAスクール構想と連携した取組を考えており、高校生等に音声図書の製作をモデル的にやらせてもらおうと考えている。1人1台タブレットを持つことになるので、これを活用し、できるだけ多くの児童生徒が製作を体験できるようにしたいと考えている。

河口委員：できるだけたくさんの方に、サポート人材になっていただけるよう取り組んでいただきたい。

菊池委員：「書籍の充実」とあるが、費用の面なのか、物的な面なのか。

生涯学習課長：物的な面での充実が必要と考えている。支援学校に状況を伺ったところ、必要な図書がまだまだ少なく、製作するのに時間がかかってしまい、読みたい図書がすぐ手に入らない状況である。

菊池委員：図書の製作を全国的に進めていくことで、増えていくということか。または県内で取組を進めていくのか。県だけでやろうとしているわけではないですね。

生涯学習課長：点字・音声図書の全国ネットワークとして「サピエ図書館」というものがあり、各県のボランティアが製作した図書が集められる仕組みになっているので、ここに提供するための人材育成を図っていきたい。また、支援学校等からのニーズに応じて、高校生等が音声図書を製作し、届けられるような取組と併せて、全国、県内の両面で図書充実化を図っていきたい。

小林委員：「サポート人材」は今後県として雇う予定はあるのか。

生涯学習課長：現在、県では、図書館サポーター養成講座を開設し、市町村で支援員として配置できるよう、人材育成に取り組んでいる。ここに、読書バリアフリーの視点を加え、サポーターとして市町村において配置されるよう検討しているところである。

## 《報告事項1 令和4年度徳島県教員採用候補者選考審査の変更点について》

教育長 報告を求める。

教職員課長 内容等を報告する。

### 〈質 疑〉

島委員：教員採用選考審査において多様な人材の確保が望まれる。そうした中で様々な選考審査の方法について考え、今回は、「英語」にウエイトを置いている

が、他の教科、校種に対する対応・施策についてはどのように考えているのか。

教職員課長：現在、GIGAスクール構想やICT教育・プログラミング教育の推進等に対応して「情報」の免許取得者への加点制度や審査の一部免除等を実施するなどしている。今後も時代や社会のニーズに対応し、順次選考方法・加点制度等の施策を考え、柔軟な対応に努める。

河口委員：特別選考等において柔軟に時代に応じた選考方法等を考えていくということは大切であるとする。他県でも防災についての関心が高まっており、防災士の資格が教員にも必要になってくる状況があるのではないかと。こうした背景から防災士等の資格を持つなど多様な人材の確保に向けた様々な有資格者に対する加点制度等についてはどのように考えているか。

教職員課長：現在の選考審査においては、学校教育活動を中心に据えた教科の免許や資格といったものに対する加点制度等の優遇措置の実施となっている。教科指導や学校教育活動において直接的でない資格や免許に対する評価をどのように行っていくのか検討が必要である。

河口委員：是非とも検討をお願いしたい。

小林委員：時代や社会のニーズに応じた柔軟な対応・改善等においては評価する。本県の教員採用審査は面接（人物）重視である。1次・2次の面接においてそのときだけの評価で採用を決定するのは非常に難しい。現役学生の受審者は仕方ないが、講師の方については学校現場での勤務状況や学校長等の評価・意見等を考慮し審査に反映するなどの対応についてはどのように考えているのか。

教職員課長：教員採用選考審査において第1に公正・公平な審査に努めなければならない。講師の方だけが有利・不利となることは避けなければならないと考える。面接時に受審者の経験や人物をより正確に評価することはもちろんであるが、受審者が自らの能力や資質、これまでの経験等を十分に発揮できるよう、模擬授業やロールプレイなど様々な工夫をしている。受審者には、しっかりと面接・模擬授業の場で経験等をいかした能力等を発揮していただきたい。

小林委員：講師とそうでないものが不公平になることはいけない。ただ、現場でのマイナス評価等においても同じ考えか。

教職員課長：受審者が審査において不利益を被ることは、不公平となる。面接・論文・筆記審査等において公正・公平な評価を行っていくことに変わりはない。

小林委員：面接官の1人としてしっかりと受審者を見つめ評価していく。

[非公開]

《協議事項 1 教職員人事異動に関する案件について》

《報告事項 2 教職員人事異動に関する案件について》

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前 11 時 25 分